

鳥屋城山で発見された

モササウルスの化石

モササウルスとは、恐竜と同じ時代に海の中で生息していたトカゲやヘビに近い巨大な生き物で、体長が10mを超えるものもあり、陸の王者である肉食恐竜に対して海の王者とも呼ぶべき存在であったと考えられています。

平成18年（2006年）に鳥屋城山で発見されたモササウルスの化石は、その後の発掘調査と約5年間にわたるクリーニング作業（化石の表面に付いている余分な石を取り除く作業）によって、全体の80%が残っている全身骨格化石であることが判明しました。日本で発見された初めての全身骨格化石として世界的にも貴重な発見と評価されており、新種の可能性も考えられています。

また、これまでに知られているモササウルスの化石に比べ、非常に大きなヒレを持つという特徴も明らかとなっています。モササウルスは泳ぐ際には尾を使い、ヒレはほぼ使わないと考えられてきましたが、このヒレがどういった用途で使われていたのかという新たな謎が生まれています。これまでの学説を覆すような存在になるかも

しれません。

現在、和歌山県立自然博物館において、企画展「モササウルス復元プロジェクト」が開催されています。この企画展では、鳥屋城山から発見されたモササウルスの化石約220点がほぼ全て展示されているほか、生体復元模型なども公開されています。また、大阪府泉南市や兵庫県あわじ市で発見されたモササウルスの化石も展示されており、比較することができます。ぜひともこの機会にご覧ください。

企画展「モササウルス復元プロジェクト」

会期／2月9日（日）まで

※毎週月曜日・12月29日（日）から1月3日（金）は休館

場所／和歌山県立自然博物館（海南市船尾370番地1）



生態復元画



全身骨格化石（残存長 約 4.5m、推定全長 約 6m）

広告 町収入の一部とするため有料広告を掲載しています。